

来て！見て！楽しんで！

## 第4回 生涯学習センターまつり

生涯学習センターまつりは、生涯学習センターを主な活動場所としている市民団体等が中心となって作り上げるイベントです。ダンス、太鼓、楽器演奏、陶芸、絵画など、様々な分野の団体が日頃の成果を披露したり、作品を展示したりしています。来場者も一緒になって参加・体験できる企画や、お子さんも楽しめる企画もあります。是非、生涯学習センターまつりにお越しください。

▲昨年度の生涯学習センターまつりでの発表の様子

**開催日：10月23日(金)～25日(日)**  
**会場：生涯学習センター**

**問い合わせ**  
生涯学習センター ☎728・0071

## 生涯学習ボランティアバンク制度を活用してみませんか？

生涯学習センターでは、市民の皆様の学習活動を支援するために「生涯学習ボランティアバンク」を設立しました。PTAや町内会等の団体が開催するイベント、講座・講演会で講師等を行うボランティアを紹介しています。

▲生涯学習ボランティアによる講座の様子

▲生涯学習ボランティアによる講座の様子

なお、ボランティアの一覧は、町田市ホームページまたは生涯学習センター窓口でご覧いただけます。お気軽にご相談ください。

**問い合わせ** 生涯学習センター ☎728・0071

## 自由民権資料館2015年度第2回特別展 水をめぐる生活誌

**入館無料**

**会期** 10月10日(土)～11月29日(日) 9時～16時30分  
**休館日** 毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌日)

今回の特別展では、人間の生活に欠かすことができない「水」との関係にスポットを当てます。特に農業と水利用の関係、大雨や台風などの自然災害への対処と復興、大山詣りに代表される水をめぐる信仰などを中心に、「水」を通して人々の暮らしと風土を見つめます。

**関連イベント**

**【記念講演会】**  
11月15日(日) 14時～16時  
**「武相の大山信仰」**  
西海賢二氏  
(東京家政学院大学教授)

**【探索・上総掘り井戸】**  
11月8日(日) 9時～13時

**【薬師池・鶴見川周辺をめぐる】**  
11月23日(月・祝) 9時～13時  
(いずれも詳細は『広報まちだ』、町田市ホームページに掲載予定)

**【ギャラリートーク】**  
毎週土曜日 14時～(1時間程度)

**問い合わせ** 自由民権資料館 ☎734・4508



▲溜井(薬師池) 絵図



▲図師町の水門

## 町田市民文学館ことばらんど 秋の展覧会

### 没後25年 日影丈吉と雑誌「宝石」の作家たち展

一日影丈吉・江戸川乱歩・横溝正史・城昌幸・山田風太郎一

**会期** 10月17日(土)～12月20日(日) **【無料観覧日】** 10/17・10/25・11/3・12/20  
**休館日** 毎週月曜日、毎月第2木曜日 **開館時間** 10:00～17:00  
**入館料** 大人400円 65歳以上・大学生200円 高校生以下無料

晩年の約20年間を、原町田で過ごした作家・日影丈吉(1908-1991)。戦後の推理文壇に文学性の高い異色作を発表し、江戸川乱歩に高く評価された日影丈吉と、雑誌「宝石」誌上で活躍した横溝正史、山田風太郎、編集者を務めた城昌幸ら、戦後の推理小説界を牽引した作家たちをご紹介します。

**【関連イベント】**  
11月15日(日)14時～16時  
**「偏愛蔵書室—文学の舶来幻術師 日影丈吉—」** 諏訪哲史(作家)

**問い合わせ** 町田市民文学館ことばらんど ☎739・3420



▲日影丈吉 自筆挿絵「ねずみ」

## 連載 町田市歴史の一コマ 鶴川地区の掘抜き井戸

市内を流れる鶴見川の流域を中心に、かつて掘削された掘抜き井戸を見ることが出来ます。この掘抜き井戸は、いわゆる「上総(かずさ)掘り」によるものです。千葉県の上総地方で確立されたこの技術がどのようなルートを経て、ここ多摩の地にもたらされたのか、興味があります。

二代にわたり「井戸屋」を営んできた能ヶ谷町の神蔵喜代勝氏のお宅には、櫓を組んで行われた掘抜き井戸掘削の作業を伝える写真や日誌などが残されています。

現在は、神蔵氏を中心に市民有志の

方々による掘抜き井戸の調査や、井戸のあった場所等の記録が進められています。



▲現在も市内にある掘抜き井戸



▲井戸掘削のための櫓

## 連載 遺跡が語る土地の記憶 榎山神社北遺跡(弥生と古墳時代の集落跡)

この遺跡は三輪小学校の新設に伴い1979年の7月から11月にかけて発掘されました。敷地内の約2500㎡が調査され、約2000年前の弥生時代中期(住居2軒)と6～7世紀の古墳時代後期(同15軒)のムラの跡が発掘されました。

注目すべきは弥生時代中期の小さな甕形土器です(左下写真)。これは火事で燃えてしまった竈穴住居から、どこも欠けず出土したものです。高さ14.5cm、脚台の付いたスマートな優品です。口に近い部分には細かい縄文の文様が、胴部には竹管による線状

文が描かれ、その上にはボタン状の貼付文が散りばめられています。文様の特徴から南関東では少数派の中部地方の土器様式と思われる。町田では、弥生時代にも広範囲にわたる交流があったことがわかります。



▲弥生時代中期甕形土器